

CLIからのExpresswayパケットキャプチャの収集

内容

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[パケットキャプチャプロセス](#)

[ディスク領域の使用状況とキャプチャ場所の確認](#)

[キャプチャオプション](#)

[キャプチャの開始と収集](#)

[関連情報](#)

はじめに

このドキュメントでは、Tcpdump機能を使用して、ExpresswayまたはVideo Communication Server(VCS)のCLIからパケットキャプチャを収集する方法について説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識が推奨されます。

- Cisco ExpresswayまたはCisco VCS
- TCPDump

使用するコンポーネント

このドキュメントの内容は、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

パケットキャプチャプロセス

ディスク領域の使用状況とキャプチャ場所の確認

1. Expressway CLIにルートユーザと関連パスワードを使用してログインします。

```
login as: root
Keyboard-interactive authentication prompts from server:
| Password:
| End of keyboard-interactive prompts from server
```

Expresswayルートログイン

2. コマンドを使用してディスク領域の使用状況を確認し、パケットキャプチャを保存するための十分な領域があることを確認します。

```
df /mnt/harddisk
```

3. コマンドを使用して、保存するキャプチャ用の新しいディレクトリを作成します。

```
mkdir /mnt/harddisk/capture
```

4. 新しく作成したディレクトリに移動します。

```
cd /mnt/harddisk/capture
```

キャプチャオプション

パケットキャプチャは、Tcpdump機能を使用してさまざまなオプションで設定できます。このコマンドは、任意のインターフェイスでパケットをキャプチャし、Newcaptureという名前のファイルに書き込みます。任意のファイル名とオプションを指定できます。

```
tcpdump -i any -w Newcapture
```

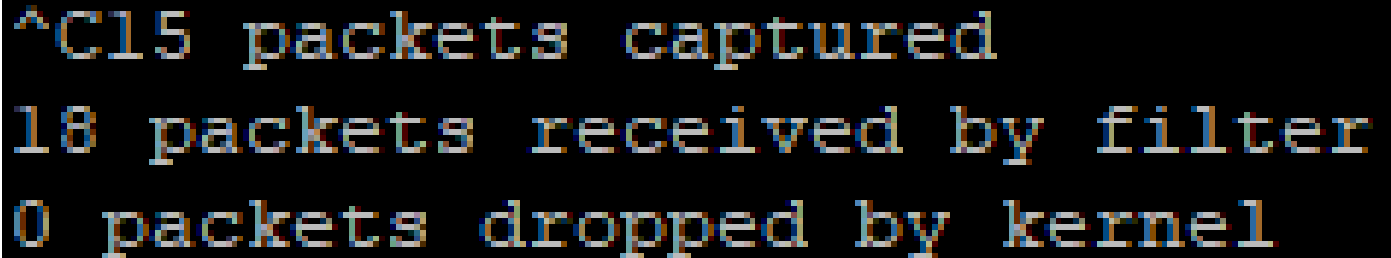
その他のオプションについては、[Tcpdumpのマニュアルページ](#)を参照してください。

キャプチャの開始と収集

1. コマンドを使用して、新しいパケットキャプチャを開始します。このコマンドで使用するオプションは、イーサネット0インターフェイスでパケットをキャプチャし、パケット全体を表示して、Newcaptureという名前のファイルに書き込みます。

```
tcpdump -i eth0 -s 0 -w Newcapture
```

2. 目的のパケットがキャプチャされたら、キーボードのControlボタンとCボタンを同時に押して、キャプチャを停止します。



```
^C15 packets captured
18 packets received by filter
0 packets dropped by kernel
```

Expresswayコマンドライン

3. Secure File Transfer Protocol (SFTP)クライアントを使用して、キャプチャディレクトリからローカルコンピュータにファイルを転送します。

4. コマンドを使用して、新しく作成されたディレクトリとパケットキャプチャファイルを削除します。

```
rm -r /mnt/harddisk/capture
```

関連情報

- [Tcpdumpマニュアルページ](#)

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。